

開催地名：山梨県甲府市	
開催日時	令和 5 年 1 月 15 日（日） 13：45 ～ 15：15
開催場所	甲府市総合市民会館
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	甲府市防災リーダー登録者 181 名
開催経緯	<p>近年、全国各地で未曾有の自然災害が相次いで発生しており、線状降水帯による豪雨により多くの被害が報告されている。本市においても 30 年以内に南海トラフ地震が発生する確率が 80%とされ、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されていることから、地域の防災リーダーを育成するための研修会や避難訓練などの実施により災害対応力の強化や防災意識の向上に努めている。しかし、水害、地震等の大規模災害の経験が少ないこともあり、災害発生時の対応が不十分となる可能性がある。</p>
内容	<p>（１）東日本大震災とは</p> <p>2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に、水深 6,500 メートルにある縦 500 キロ、横 200 キロの広さの海底プレートの跳ね上がりによって発生した地震は、マグニチュード 9.0 を記録し、1,000 年に 1 度の規模の災害と言われている。</p> <p>まずは、東日本大震災の私自身の体験をお話したい。私は所用で自宅に帰っていたが、突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが長く続いた。</p> <p>そのあと、大きな津波が来ると思い、住んでいるマンションの居住者を避難所へ誘導した。これまで実施してきた避難訓練は町内会の有志が集まってやっていたが、町内会ごとの自主防災組織は全く稼働できず、家族、あるいは近所同士の小単位で避難を余儀なくされたのが実情である。現在各地で行われている避難訓練は、通常土曜や日曜など、勤労者にとって都合の良い日時に行われている。しかし東日本大震災は、勤労者、特に男性がほとんどいない平日の昼間という時間帯に発生した。高齢者や主婦しかいない状況下での避難訓練も想定していただくとともに、自主防災会や役員への女性の登用についても、今後は推進していく必要がある。</p> <p>地震が収まった後、私は避難所の運営に携わった。避難所でどう活動するかについては、町会や自主防災会ごとにまず係を決めて対応してほしい。すでに担当が決まっているところも多いだろうが、名簿班、総務班、情報広報班、食料物資班、救護衛生班などに分かれて活動することになる。大きな問題は、トイレの確認である。避難所は人数が多く、トイレが必ず詰まる。組み立て式のトイレもすぐいっぱいになる。これは今後の重要課題として意識しておいてほしい。</p> <p>また避難部屋の周知徹底も重要である。指定避難所に行った場合、どこの部屋に行けば良いか皆悩む。体育館だと思われることが多いが、水害の場合 1 階の高さでは水没する恐れがある。必ず 2 階以上に避難するように周知したい。</p> <p>（２）東日本大震災から学んだこと</p>

東日本大震災は、災害対策を決して怠っていたわけではないが、これまでの取り組みが無効だと感じてしまう程の規模であった。同規模の地震・津波発生時は、「より遠く、より速く、より高く」を意識して、まずは自分の命を守ることを第一に考えて行動してほしい。避難時には、声が大きく統率力のとれる人が先頭に立つのが良い。気が動転している人が沢山いるため、混乱している人を鼓舞することが大切である。そしてもし可能であるならば、皆さんの自宅の中に、家族の皆さんが地震の際に逃げ込む部屋を準備しておいていただきたい。その部屋には家財道具も何も一切置かないということが肝心である。もし地震があった場合、家族全員がその部屋に逃げ込む。何もないからけがする心配もない。

また、各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、平常時の防災訓練等で、学校との連携を密にしていきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行なえるはずだ。

(3) まとめとして

公助が機能するまでの 72 時間、自助と共助で乗り切る必要がある。3 日間は役所の援助を頼らずにしのげるよう、必要な備蓄や準備に取り組んでいただき、まずは自分の命を、そして家族の命を優先に考え、行動していただきたい。

経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害と共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。



開催地より

講師の方には、ご自身の東日本大震災時の体験談を交えながらわかりやすくお話していただいた。今日の講演を受けて当市としては、防災リーダーフォローアップ研修について隔年から毎年実施できるように見直しを行い、更なる市民の防災・減災意識の向上を図ってきたいと思う。